

## セッション2 性能評価・症例報告

### 09. 酢酸含有透析液が皮膚掻痒症に関連したと考えられる維持透析症例

○小野 里菜 (オノ)、原嶋 美幸、天野 雄介、菊地 勘  
医療法人社団豊済会

**【症例】** 50代の男性。201X年4月に糖尿病性腎症のため血液透析を導入した。1年後の5月下旬にシャント肢の掻痒と皮疹が出現した。その後、徐々に背中や腹部、鼠径部など全身に掻痒と皮疹は広がった。皮膚科に通院を開始して、ステロイド含有軟膏や抗ヒスタミン薬、ナルフラフィン塩酸塩を処方され1か月程度経過したが症状は改善しなかった。掻痒や皮疹は徐々に増悪して、6月中旬には掻痒のため不眠となった。特に透析条件の変更はなく、透析効率や血液検査にも変化は認めなかった。6月下旬に酢酸含有透析液から無酢酸透析液に変更直後より掻痒が軽減、2週間後には皮疹が改善した。

**【透析条件】** 前希釈オンラインHDF、置換液量は4時間で48L、透析液流量は700mL/min、血液流量は250mL/min、抗凝固薬はダルテパリン1500単位ワンショット、ヘモダイアフィルタはFIX-210S。掻痒と皮疹の改善前後で透析液以外の変更ない。

**【考察】** 本症例では他の透析条件や薬剤の変更なく、無酢酸透析液に変更直後より劇的な症状の改善を認めていることから、酢酸含有透析液が原因と考えられた。導入後から約1年が経過しての発症であり、稀な症例であることから文献的な考察を加えて報告する。